年年歳歳

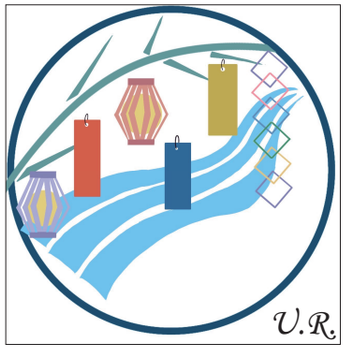
わんわんさいさい

札幌月寒高校図書局

7月

2025年7月23日

編集：



花鳥風月

たなばたさま

ささのは　さらさら　軒端にゆれる　おほしさま　きらきら　金銀　砂子（すなご）

この歌は作曲家の下總皖一（しもおさ　かんいち）さんと作詞家の権藤花代（ごんどう　はなよ）さんによって昭和１６年に学校の教科書のために作られた歌です。

日本の小学生が歌いやすいような沢山の工夫がされています。代表的なもので言えば、一番の終わりの天の川を表す砂子と二番の最初の五色が「ゴ」でつながり、歌いやすくなっています。

また、この楽曲はト調長調ヨナ抜きという、ソラシレミソの５音でできています。これは、童謡『ふるさと』や『赤とんぼ』にも使われています。（　　）

図書館リポート Vol.42

今回は、図書館に設置されているコーナーについて紹介します。

図書館でセリフケア！

「図書館？どうせ難しい本ばかりでしょ。」そう思っている方も多いのではないかと思います。しかし、月高の図書館には魅力的なコーナーがあるのです！それはずばり、漫画コーナー『三国志』などの歴史を学べる漫画だけでなく、『薬屋のひとりごと』『憂国のモリアーティ』『キングダム』『メダリスト』など最近話題となった漫画が豊富にあります。

私は最近、アニメで見ていた『薬屋のひとりごと』を漫画でも読み始めました。疲れた時にホッと一息つける憩いの場、それが図書館なのです！

読みたい漫画や本を予約することもできます。ぜひ、図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。（　　）

局員のオススメ本

『ヨモツイクサ』
知念実希人 著
双葉社

『グラスホッパー』
伊坂幸太郎 著
KADOKAWA

『ヨモツイクサ』

あなたは、どんな死に方が一番残酷だと思うだろうか。

舞台は北海道旭川の山奥。そこは、アイヌの人々が禁忌として言い伝えてきた森だった。「黄金の森には絶対に入ってはならない。そこにはヨモツイクサがいるから。」しかし「黄金の森」で事件は起こってしまった。森をリゾート開発しようとする開発業者の従業員が行方不明になってしまう。

ヒグマは、動けなくなった生きた獲物の腹を食う。森での一連の事件はヒグマの仕業だと誰もが思っていたが、そこには想像を絶するような生物が息を潜めていた。ヨモツイクサだ。

近年ヒグマの目撃情報が相次いでいる。この本を読むとその怖さがよりリアルに感じられるだろう。正体不明な生物、ヨモツイクサにも終始目が離せない。現役医師の知念実希人が贈るバイオホラーミステリーをぜひ楽しんでもらいたい。（　　）

『グラスホッパー』

いきなりですがみなさん、授業中や寝る前に身近な人が襲われ、その後アヤシい組織に潜入してスパイとして大切な人の仇を取る…。そんな想像したことありますか。高校生なら一度はありますよね。そんなあなたにこの本はどうでしょうか。

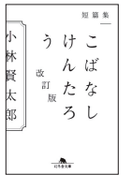
主人公の鈴木は大切な妻が「押し屋」にひき逃げされ、必ず復讐することを誓います。

鈴木は「押し屋」が所属する会社、「フロイライン」に潜入し、犯人を突き止めようとしますがささいなことからスパイだと勘付かれます。

一方、二人の殺し屋「鯨」と「蝉」もそれぞれ「押し屋」を追っていて…。鈴木は復讐することができるのか。ぜひあなたにこの目で読んで確かめてほしいです。（　　）

局員メーター

このコーナーでは、局員が今までに読んだ本を評価とともに紹介していきます。



『こばなしけんたろう』
小林賢太郎 著
幻冬舎文庫

かつてお笑いコンビ「ラーメンズ」として活動していた小林賢太郎によって書かれた短篇集『こばなしけんたろう』。この本には、彼の想いや考え方、日本語遊びがたくさんつまった”こばなし”が全26篇収録されています。今回は、私が特に好きな”こばなし”「砂場の少年について」を紹介します。

砂場の少年について…このタイトルと、冒頭の「この物語はフィクションです。」という文言は、彼の承認欲求と気恥ずかしさのようなものが同時に滲み出ている気がしてくる大好きな導入です。というのも、この物語はファンが読めばすぐに「本人の実話だ」とわかる内容なのです。しかし、物語の中でそれに言及する瞬間はありません。物語の最後に「私が作家という職業にいたるきっかけになったお話だ。」と書いていますが、冒頭の文言によって真実がうやむやになる…このあざとさが大好きな部分です。読むだけで存分に彼の魅力を感じることができる一冊です。（　　）

読みやすさ	★★★
ワクワク度	★★★
不思議度	★★☆

月高交流会 in 高東

異文化交流!!

6月6日、私達は札幌東高校の図書局員の皆さんと交流会をしました。得るものがとても多く有意義な会であったのと同時に、普段関わることのない同世代との交流はとても楽しかったです。

東高図書局について少し紹介させていただきます。

現在、3年5名、2年5名、1年8名の計18名で活動されていて、昨年度の「T-1（図書館活動グランプリ）」でグランプリ獲得という優秀な成績を持つ、まさに名門校の図書局です。また、図書局内で様々な企画が催されており、活気あふれる図書館にするため努力なさっています。

交流会は、我が月高図書局の企画「館報パズル」から始まりました。「館報パズル」は月高図書局が発行している館報をタイトルと記事に切り分け、元の形に修復するというパズルゲームです。今回の交流会で、東高の皆さんから「月寒高校の図書局の館報を学びたい」との要望があり、それに答える形で発案したものが「館報パズル」でした。

シンプルですが、記事とタイトルをよく観察することが鍵となるこのパズルは、その要望に答えられたようで、月高図書局員に積極的に質問してくれる、東高の皆さんの姿が見られました。お互いに深い交流が見られた良い企画だったと思います。

次に東高図書局の皆さんの「T-1」を見せてもらいました。

そもそも「T-1」とは、いわゆる「自分たちの活動報告」です。二次審査で行われるプレゼンテーションは、いかに聞き手に自分たちの活動を印象付けられるかが鍵となり、昨年数多ある道内の図書局の中で東高が頂点にたったグランプリとなっています。

東高のプレゼンテーションは、さすがグランプリ獲得校と言える、見ごたえがあり面白い発表でした。月高図書局員の多くはT−1というものに触れたことがない人がほとんどで、どんなものなんだろうと交流会以前から期待値が高かったのですが、東高の皆さんの聞き手を掴む流暢な語り部や話の構成などで一気に引き込まれ、自然と前のめりになって聞いていました。

そんなプレゼンの中で、局員が特に関心を寄せたのが、2月に行われているという「チョコまき」という企画です。バレンタインデーと豆まきを融合させたオリジナルの行事的企画だそうで、毎年賑わいを見せているようです。月高局員はぜひ我が校にも取り入れたいと、目を輝かせていました。私もだいっ賛成です！

少し休憩を挟み、再開した交流会の最初の企画は「簡易ビブリオバトル」です。

ビブリオバトルといえば、いわば本のプレゼンバトルであり、自分の好きな本をどれだけ言葉巧みに伝え相手に印象付けられるかを競うものです。

今回行ったのはその簡易版。題材を本に限らず、漫画・小説・趣味のものなど幅広いジャンルにし、気軽に楽しもうと企画しました。

しかし、当日発表者が用意したものは殆どが小説。やはり図書局員は小説に魅せられた人の集まりなのだとしみじみ感じました。

ビブリオバトル各回どれも「読んでみたい！」と強く思わせてくれるものばかりで、語り部の言葉選びや、ぐっと引き込む感情をのせた話し方など、どれも舌を巻く発表でした。この簡易ビブリオは、堅苦しいものではないので、友人や家族同士でも気軽にできると思います。ぜひ自分の熱い気持ちをのせられる本を持ち寄って、挑戦してみてください。

こうして、お互いに持ち寄った企画もすべて終了しました。どれも楽しく、またただ楽しいだけではなくて、お互いに利益になる何かが得られた、そんな企画でした。

残った時間は、お菓子を広げて団らん会。これまでの企画内容を振り返りつつ、それぞれの高校について、勉強について、趣味についてを語り合いました。

親近感が湧いたのは、お互いの高校の悩みとして「校舎がボロい」が共通項だったことです。「以前、ボイラーの故障で休校になったことがある」と話すと、驚いた顔をしていました。しかし、東高も負けず劣らずで「床に大きな亀裂が入っている」などと並べ立てていました。どの高校も悩むところは一緒なのですね。

時間はすぎるのが早いもので、ひょんなめぐり合わせで貴重な時間を過ごした東高との交流会は幕を下ろしました。今度はぜひ東高にいらしてください、という言葉を頂いたので、大量の手土産とともに賑やかしに行こうと思います！（　　）